

令和元年度 附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

1. 平成31年（令和元年）度附属練習船勢水丸運航概要

平成31年（令和元年）度は、実習航海18航海、研究航海10航海、地域貢献等その他の航海6航海の合計34航海、計133日の航海を実施した。実習航海では401人、研究航海では120人、その他の航海では41人が乗船した（すべての乗船人数について海事教員は除く）。松阪港停泊中には、フィールドサイエンスセンター体験演習として4日間で282人の演習を実施したほか、2団体27名（教育学部技術教育課程教員と学生および三重大学附属小学校保護者会）の見学を受け入れた。

教育関係共同利用拠点事業では、2期目の5年目（2期目最終年度）となり、単独航海では京都大学総合人間学部、四日市大学環境情報学部、名古屋大学理学部、中部大学応用生物学部の4大学で合計71人が乗船した（毎年実施している北里大学については海洋生命科学部の改組に伴う実施学年の変更のため今年度のみ休止とした）。公開実習航海では高雄師範大学、県立広島大学、東京学芸大学、九州大学、北海道大学、新潟大学、筑波大学、中部大学、京都大学、名古屋女子大学、皇學館大学の学生43人が本学

の学生とともに所定の実習を行って単位認定を受ける特別聴講学生（特別聴講学生以外の学生、教職員、その他外部乗船者など共同利用としての乗船者を含めると57人）として乗船した。

その他の航海では、高大連携事業のハイスクールフィールドワークとして生物計測実習と環境計測実習の2航海を行い、津田学園高校、四日市高校、四日市南高校、津高校、津西高校、高田高校の生徒および教諭が55人乗船した。台風避難航海として、台風3号、10号、19号で合計8日間の避難航海を行った。

検査工事・一般修繕工事は、一般入札により令和2年1月15日から2月7日（工事期間1月16日～2月6日）まで大阪市西成区のサノヤス造船株式会社大阪製造所で実施した。竣工11年目の第2種中間検査および一般修繕工事を行い、実習航海や研究航海に支障が出ないように検査・整備工事を行った。

平成31年（令和元年）度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止の観点から、3月以降の航海はすべて延期となった。

令和元年度 航海実績

実習航海

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1901	公開	水産生物学実習	4/2～5	4	26 (7)	
1904	学内	博士後期課程特別調査研究	5/8～9	2	4 (1)	
1906	公開	海洋環境調査実習	5/21～25	5	24 (4)	高雄師範大学1名 広島県立大学3名

1907	単独	(単)京都大学 総合フィールド演習	5/29~31	3	26 (11)	京都大学26名 東京学芸大学1名 九州大学1名
1908-1	公開	陸海空・環境科学実習 1班	6/4~8	5	28 (6)	京都大学7名 北海道大学1名 海洋研究開発機構1名 北海道大学1名 新潟大学2名
1908-2	公開	陸海空・環境科学実習 2班	6/8~12	5	28 (6)	筑波大学1名 東京学芸大学2名 九州大学3名
1913	単独	(単)四日市大学 伊勢湾海洋調査実習	8/6~8	3	24 (2)	四日市大学24名
1914	公開	海洋総合航海実習	8/19~30	12	25 (8)	中部大学2名
1915	単独	(単)名古屋大学 大気水圏フィールドセミナーII	9/2~5	4	36 (13)	名古屋大学22名
1916	学内	環境科学~海に親しむ~	9/9~11	3	15 (8)	
1917	学内	乗船実習I (第1班)	9/12~13	2	24 (6)	
1918	学内	乗船実習I (第2班)	9/17~18	2	19 (5)	
1919	学内	乗船実習I (第3班)	9/19~20	2	23 (6)	
1920	公開	海洋生物資源調査実習	10/1~4	4	27 (8)	京都大学1名
1921	学内	海生哺乳動物学実習	10/8~10	3	23 (9)	
1922	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習I	10/15~16	2	27 (16)	名古屋女子大学9名 京都大学1名 皇學館大学1名 名古屋女子大学14名
1923	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習II	10/17~18	2	25 (17)	京都大学1名 皇學館大学1名
1928	単独	(単)中部大学 環境生物科学セミナー	2/18~20	3	16 (1)	中部大学16名
1929	学内	乗船実習II (第1班)	2/24~27	4	20 (5)	運航補助員1名
小計				70	440(139)	

研究航海

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	主な研究目的	
1902	研究航海 (宮崎)	4/8~10	3	11 (4)	熊野灘および伊良湖沖海底谷における深海生物の採集及び生息環境調査	
1903	研究航海 (木村)	4/22~24	3	20 (4)	深海性のマクロベントスおよび底層魚類とその寄生生物の採集	
1905	研究航海 (倉島)	5/14~16	3	13 (2)	鳥羽沖~志摩半島沖の藻場周辺海域における生物採集及び生息環境調査	
1909	研究航海 (宮崎・小川)	6/29~7/1	3	14 (2)	熊野灘および遠州灘海底谷周辺海域における深海生物の採集及び生息環境調査	
1910	研究航海 (中村・三宅)	7/22~26	5	11 (5)	ゼラチン質プランクトン類および甲殻類幼生、底生生物の採集	
1924	研究航海 (倉島)	10/23~24	2	21 (4)	藻場周辺海域の分光放射輝度分布の観測およびアオリイカの産卵前後の生態調査	
1925	研究航海 (中村・石坂)	10/29~11/1	4	24 (4)	伊勢・三河湾におけるクロロフィルaと植物プランクトンの群集構造の把握	
1932	研究航海 (宮崎)	11/19~22	4	14 (2)	熊野灘および遠州灘海底谷周辺海域における深海生物の採集及び生息環境調査	
1926	研究航海 (前川・下村)	11/26~29	4	17 (4)	底生性動物 (貝類、甲殻類、刺胞動物、コケムシ類など) の分類に関する研究	
1927	研究航海 (竹内)	12/5~6	2	5 (5)	クリティカルケア看護	
小計				27	150(36)	

その他（一般公開，避難，ドック）

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
	台風3号避難航海	6/27~28	2		
1811	高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第1班	7/29~30	2	24 (11)	生物計測編
	高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第2班	8/1~2	2	28 (6)	環境計測編
1812	台風10号避難航海	8/14~16	3		
1814	台風19号避難航海	10/11~13	3		
	第2種中間検査工事及び一般修繕工事	1/15~2/7	24		サノヤス造船(株)大阪製造所
小計			36	52 (17)	
合計			133	642(192)	

本船見学

12月18日	本学教育学部技術教育課程教員，学生	7名
12月21日	本学附属小学校おやじの会	20名

2. 平成31年（令和元年）度 全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会報告

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下，分科会）とは，練習船を持つ次に掲げる水産・海洋系大学（校）を会員として組織され，練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し，練習船における教育研究調査の充実発展を図るとともに，練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として，年に一回，分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものであり，平成31年（令和元年）度は東京海洋大学が当番校となり品川キャンパスで開催予定であった。しかしながら，新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止の観点から年度内の開催は中止されて開催時期未定のまま延期となった。分科会の審議事項，報告事項は以下の予定であった。

【審議事項】

- 議題1. 教育関係共同利用拠点における練習船の利用状況について（三重大学）
- 議題2. 教育関係共同利用拠点に関わる乗船実習や余席利用に対する利用料金徴収について（鹿児島大学）
- 議題3. 「国立大学の附属練習船を活用した大規模災害時支援マニュアル」について

（東京海洋大学）

議題4. 次回当番校及び役員について（東京海洋大学）

【報告事項】

- 報告1. 長崎丸教育関係共同利用拠点の利用に係る施設維持管理費の徴収について（長崎大学）
- 報告2. 船舶保険について（東京海洋大学）
- 報告3. 第18回全国水産・海洋系学部等協議会報告について（東京海洋大学）

年度内の分科会開催は中止となったが，分科会の幹事で新型コロナウイルス感染拡大防止に関する各大学や練習船の対応について電子メールなどで積極的に情報交換を行った。

3. その他

（1）練習船運営委員会および共同利用拠点支援室会議について

昨年度は以下の日程で運営委員会および支援室会議が実施され，練習船運営や教育関係共同利用拠点としての取り組みになどについて審議・報告がなされた。

【練習船運営委員会】

- 第1回 4月16日
- 第2回 6月18日（メール会議）

- 第3回 7月31日
- 第4回 10月7日
- 第5回 11月11日（メール会議）
- 第6回 12月23日
- 第7回 2月4日（メール会議）
- 第8回 3月9日
- 第9回 3月19日（メール会議）
- 第10回 3月31日（メール会議）

【教育関係共同利用拠点支援室会議】

- 第1回 6月3日
- 第2回 7月31日
- 第3回 10月7日
- 第4回 1月17日（メール会議）
- 第5回 3月9日

（2）情報発信について

昨年度リニューアルしたHPの改訂や、同時に開始した本船の公式フェイスブックページ（<https://www.facebook.com/seisuiamaru/>）の更新を可能な限り実施し、情報発信を積極的に行うようにした。

（3）観測データ提供について

外洋域航走中の流向流速などの観測データを第四管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課海象担当、三重県水産研究所、日本水路協会に提供しているが、平成31年度は13航海分のデータ提供を行うことができた。これに関してはこれからも各機関に提供できるように続けていきたいと思う。